



鵜殿麻里絵の神戸老舗うまいもん巡礼

「桃太郎 力餅」

創業大正元年



餅は、創業当時からきねとうすを用いてつくられている

創業から約100年近く続く店が元町にある。

が元町にある。

当時はずんざいなどが中心の甘党の店であったが、初代 笠井一さんから息子の二代目一弘さんに代わった後はうどんなども始め、職人気質で丁寧に作られた素材と味だから行列ができるまで、その時間はかからなかった。

だしは朝一番、鍋いっぱいに入れたかつおぶしをさつと引き上げた関東風で、うどん、ねぎ、穴子、

もちなどがふつつつとおどり始めると、玉子をボンと落としてふたをする。これがここ一番のおすめ「鍋焼きうどん」(550円)だ。食後には、年中人気のおはぎ(100円)がある。また桜餅、彼岸団子、柏餅(100円)150円)と旬ごとに顔を出すメニューがあるのも楽しみのひとつ。このあんこは年季の入った銅鍋で生あん砂糖、塩でじっくりと練り上げたものを使っている。日本でもめずらしくなってきたきねとうすで作られた餅だけあり、たつぷりと水分を含むためか、しなやかな伸びを見せる。最近是新メニューの井ものも好評だ。

【桃太郎 力餅】

神戸市中央区元町通4-6-15

☎078-341-2834

午前9時〜午後6時半

日・祭日休み。

鵜殿麻里絵 フリーライター

昭和53年3月生まれ(25歳)

創業87年の老舗料亭「松適家」の4代目、食のフリーライターとして雑誌・新聞等で活躍中

今までに日本経済新聞土曜日夕刊に連載でコラムを執筆



元町商店街の一本北の通りに面する本店



マダムコンパンワ (5)

まじめに、無理をせず
おおらかな気持ちでもてなしを

銀の匙

竹村美代子さん

「銀の匙」。生まれくる赤ん坊に、銀の匙を持たせると幸せに育つといわれてきた。「パレ北」で親しまれるパレ北野坂ビルの2階にある「銀の匙」。作家・中勘介の小説「銀の匙」がたまたま本棚にあったからその著書からとった。

竹村美代子ママは、OLと二足のワラジを履きながら20代を過ごし、30歳の誕生日に転機が訪れた。当時、勤めていたクラブ「山本」の山本洋子ママの勧めもあって「銀の匙」をオープンさせた。「とにかく、偶然に偶然が重なったというか、絶対この世界で成功するという思いありませんでした。まじめに、無理をせずというのが私のモットー。とりえといえば、身体が丈夫というぐらいで、とくにお店に特徴ありませんし」。たんとんと話す姿からもマイペースぶりが窺える。その大らかさ、人にあまり左右されないから、バブル崩壊後もさほど影響を受けなかったという。同じフロアーに、八月（はずき）というカラオケスペースもオープンさせた。「銀の匙」をオープンさせたのも8月、震災後、再オープンしたのも8月だったから。

「年齢を重ねるごとに、自然に重みを増していくような、存在感のあるお店にしていきたい」と順風満帆のこれまでを振り返りながら強い思いを口にした。

神戸市中央区加納町4-7-11
パレ北野坂ビル2F
☎078-334-1838

出会い・発見・めぐり逢い

第一回

骨董ワンダーランド

KOBE 2004

2004.4/9 金 10 土 11 日

兵庫県立美術館 王子分館

原田の森ギャラリー

無料入場



「原田の森」から伝えたい

骨董ワンダーランド開催実行委員会

実行委員長 新井みき



4月9日
金、10日(土)、
11日(日)の

3日間、兵庫
県立美術館・
王子分館「原

田の森ギャラリー」で、「骨董ワンダーランドKOBE2004」を開催することになりました。

めまぐるしい技術革新の中、新しいものこそが良いことだという時代を過ぎてふと振り返ったとき、古いものの中にあるところ温まるもの、ものを大切にするところ、創造するところなど、こころの豊かさを、子供たちとともに体験することによって伝えていきたい。そんな想いをこめて、「骨董ワンダーランドKOBE2004」を企画しました。

神戸・兵庫県を中心として関西古美術が一堂に会し神戸の文化を彩る催しとして、また神戸・灘のイメージアップや周辺地域の活性化を図るとともに、大震災からの復興をアピールできればと考えています。

多くの方々のご来場を心よりお待ちしております。

あったらイイな
こんな小学校



open your imagination

協力:神戸歴史クラブ



原田の森の学校 10±11日

登校時間 10:00 授業時間 11:00~16:00

教室にて
原田の森を中心とした歴史のお話
和紙人形作り
竹細工作り
よさこい踊り
けん玉教室

要予約
(当日受付にて)

校庭にて

石ころアート
砂絵
竹細工遊び
ペーゴマ
マジックプレート

校内にて

みんなで作ろう
原田の森の学校
オリジナルかるた
文例募集

※一部 材料費 有料



大展示室 約70店舗による骨董の展示即売会場

■後援

復興への想いを込めて...

兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、NHK神戸放送局
灘区役所、神戸鹿兒島県人会連合会、灘商店街連合会、灘駅前商店会

■時間 ・9日(金)10日(土)…10:00~17:30 ・11日(日)…10:00~16:00

■会場 〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30 ・TEL.078-801-1591

<次回、9月予定>

<http://www.kotto-wonder.com>

■主催 骨董ワンダーランド開催実行委員会 〒657-0836 神戸市灘区城内通5丁目5-13 TEL078-801-6716 FAX078-802-2264

※実際の開催内容と一部異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。



骨董ワンダーランド
開催実行委員会

実行委員長 新井 みき

〒657-0836 神戸市灘区城内通5-5-13
TEL.078-801-6716 FAX.078-802-2264
<http://www.kotto-wonder.com>

日本全国輸送・海上コンテナ輸送・トレーラ
産業廃棄物収集運搬業務
株式会社 伸東運輸

代表取締役 稲村 義昭

本社
〒650-0045 神戸市中央区港島8-11-6
TEL.078-302-2511 FAX.078-302-2270
携帯 090-8827-0500

外航海運物流業
三洋シッピング株式会社

代表取締役 西田 利行

本社
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-19
TEL.078-332-4170 FAX.078-332-4860

神戸クラシックカークラブ会員の
自慢のクラシックカーが次々と登場します。
車の種類は玉石混合ですが、自分の車に
対する思い入れは金額に関係なくお宝です。
愛人のように？

由緒正しき、 ジョンブル気質

ライレーRME 1954年製
文=玉屋喜英

Essene Bambino

いつまでも
少年のように



神戸のクラシックカー



1954年、英国製中級
サルーン、ライレー1・
5リッター。兄貴分として
RMF2・5リッターサル
ーンが存在する。

「ライレー？」と首をかし
げる人が大半。「オッ！な
つかしいね、まだ走ってる
の？」と来れば余程のエン
スー。

第二次世界大戦の終焉を

待ちかねて1945年12月
発売。以後当モデルである
1954年迄、幾度かのマ
イナーチェンジを経ながら
生産された。

ロールス、ベントレーで
さえ1945年のシルバー・
ドーン、マークIV等、自社
製スチールボディに切変え
ていたが、中級車であるラ
イレーは、50年代中頃まで
英国の伝統的なコーチビル
ドボディに固守した。すな
わちMG工場で作られた
4ドア4ライトボディは、
木骨にスチールパネルを被
せた昔ながらのコーチビル
ドでルーフのみはレースの
様に無数の穴を開けた肉薄
鋼板を下地とし、その上に
レザーを張ったものである。



伝統的な英国のクラフトマンシップが香る



(上) 当時最先端の技術の名作エンジン



SPEC ライレー1.5L・サルーン

エンジン	直列4気筒 ツインアンダーヘッド・カムシャフト	ヘミ・ヘッド
	1496cc 54hp/4500rpm	
ステアリング	ラック&ピニオン	
最高速	75mph (120km)	
ミッション	4速フロアシフト (2速以上シンクロ・メッシュ付)	
ボディ	木骨・スチールボディ	
ブレーキ	4輪ドラムブレーキ	
	フロント オイルブレーキ	
	リヤ ロッドブレーキ	
サスペンション	フロント コイルスプリング独立懸架	
	リヤ リーフスプリング	
全長	4540mm	
全高	1500mm	
全幅	1610mm	
車重	1250kg	

当時輸入の難しい時代に、40台のモデルが輸入され、当モデルは、その中の1台である。

戦後間もなく生れたこのモデルはライレー社の精神に忠実な伝統的な英国のクラフトマンシップと云う新旧世代の最善の資質が見事に結合された稀な例とされている。

又RMシリーズは、最後のライレーと云われ、それ以降のモデルは、単にライレーのバッヂを付けたウーズレーでありオースティン

になってしまっている。正に4ドアサルーンのスタイ

リングとしてクラシカルと

モダーンの巧みな調和であ

り、その高い工作技術とフィ

ニッシュは、ブルーダイヤ

モンドの伝統に恥じない貴

重なモデルと云っても過言

ではないと思う。

小鼓会／新春の集い 神戸倶楽波デビュー



あらばしり夜は夜の色に
汲まれ来て小鼓子

新春の神戸小鼓会は、2月10日午後7時から、西村屋和味旬彩・三宮店で「美酒小鼓」と「カニ」の饗宴に約90名参加と人気抜群。

西山裕三社長は、「今夜は、純米吟醸生酒（市島町産の「兵庫北錦を使用」と、吟醸生酒（播州産の「山田錦」と丹波産の「五百万石」を使用）に加えて、新しいスタイルのグラッパ（ホワイトブランデー）「神戸倶楽波」を楽しんで頂きます。

このグラッパは、西山酒造場から1キロ離れた場所に、神戸ワインから酵母をもらいまして、4本の煙突がハイクラな工場が完成しまして、そこで生れた「神戸倶楽波」（2500円）です。」

昨年暮れに還暦パーティーを開いた西山社長の新しい挑戦ぶりが頼もしい。

貝原高校の同級生三原さんが乾杯の音頭を。司会は幹事の中島典子さん。

小鼓の名付親・高浜虚子の孫、高浜虚子記念文化館の高浜館長さんも参加。

但馬本場のカニづくしは、さしみから焼きガニ、カニ鍋まで「神戸倶楽波」誕生にふさわしい冬の宴だった。

■私の意見

明石海峡大橋を

国際観光のエースに

堀切 民喜

(本州四国連絡橋公団 総裁)



神戸は観光地として恵まれています。神戸市が一年秋に東京、仙台、福岡の各三百人を対象に行った「神戸のまちのイメージ調査」によると、神戸は、港、異国情緒、ファッション、六甲の山と緑、グルメの町とみられています。また、神戸で行ってみたいところは、有馬温泉、北野異人館街、六甲・摩耶、明石海峡大橋、六甲アイランドの順でした。

日本人の観光客には温泉、ショッピング、グルメが人気のようですが、神戸はその要件をすべて備えています。「月刊神戸っ子」をみるとここに暮らしていることの幸せをつくづくと感じるのです。

しかし、日本の観光地が国際的にもう一つブームを呼ぶためには「外国人に好まれる観光地とは何か」をあらためて考える必要があるのではないのでしょうか。日本人にとっては「いい温泉がある」というのはたしかに魅力ですが、外国人には「自然や風景が素晴らしい」、「他にない見所がある」、「歴史や文化が素晴らしい」といった、本来観光の意味している「サイツ・シーイング」の要素をもっと前面に押し出すことが大切です。

外国人に好まれる観光地はどこか。私は、明治時代に新渡戸稲造が「予はじつに世界の宝石なりと断言す」と絶賛した瀬戸内海が最高だと思っています。神戸は瀬戸内海の玄関口に位置しています。そして玄関口を彩るモニュメントとして世界最大の吊り橋である明石海峡大橋があります。

JR西日本は最近「海望浴に行きませんか」という面白い企画の中で舞子公園から眺める大橋の全景を紹介しています。また垂水区は区内から眺める大橋の「ビュースポット五十選」を最近発表しました。明石海峡大橋がサンフランシスコのゴールデン・ゲート・ブリッジのように神戸のみならず日本の国際観光の目玉になればというのが私の切なる思いですが、この二つの試みは私をたいへん勇気づけるものです。

■ ポエム・ド・コウベ 春めぐる

詩 竹中 郁

画 小磯 良平

ふと立ちとまる。

誰かがわたしを呼んだ、
なにかがわたしとすれ違った。

連れだつてゐる妻よ、

いぶかるか

「なにか忘れものでもなすつて」と。

ふと立ちとまる、

ものの種子^{たね}うる店の頭^{さき}。

しづかなしづかな^{ひるさか}午下り、

今しも羽根ふるはせて

ほの揺らぐ陽炎……

とき色にうす紫に

銘々^{めいめい}やさしい名前を胸につけて……

連れだつてゐる妻よ、
いぶかるか

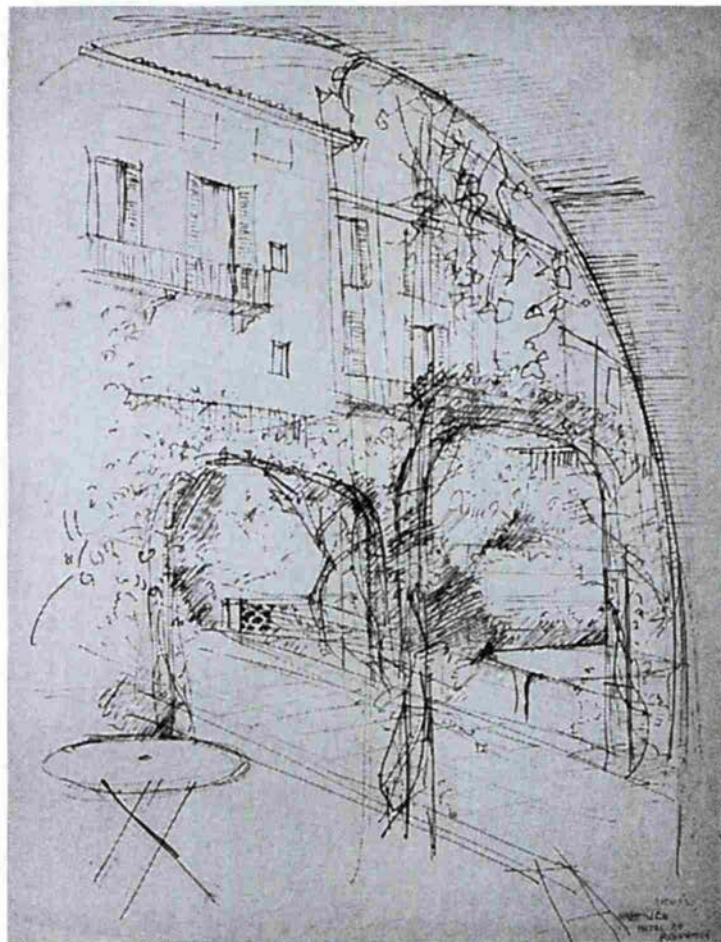
「なにか急に思ひ出しでもなすつて」と。

わたしは斯うして

今いくそたびこの季に回りあふことか、

わたしは知らぬ。

(詩集『龍骨』から)



ヴァンス・ホテル・ド・プロヴァンス (フランス) 昭和35年作
神戸市立小磯記念美術館所蔵

れんさい随想／⑨

神戸のこと 手当り次第

淀川 長治

え・中 西 勝

「ええとこ、ええとこ、聚楽館、わるいとこ、わるいとこ、ナンヤラ座」という流行語がその昔はやったことがある。東京でいう「今日は三越、明日は帝劇」みたいな貴族的あこがれが神戸式にずばりと申すと「ええとこ、ええとこ」になる。

この聚楽館に大正十一年の暮れであつたらうか露西亞舞踊劇と称する一座が一行二十名あまりでやって来た。技芸員のアンナ・パウロワを筆頭に、これに加えて音楽指揮のセオドル・スタイアーとモスコウ・オーケストラ団。

この聚楽館はだいたい東京の帝劇をそっくりまねた感じで場内正面の舞台の前方のアーチ型の天井の壁画の泰西名画風の天使のさまざまな油絵の美しさ。またロビーから一步玉じやり敷きつめた庭に出ると、小さな噴水のたえまなく流れ出る水音のやさしさ。そのあたりにはテーブルと椅子が植えこみの木影にならんで夜空を仰ぎながらサイダーを飲んだ楽しさ。そんな聚楽館が好きだったが、またここで演るものもみんな上等で、しかもこんどはアンナ・パウロワとかいう「えらい人」が来る。当時の新聞が一頁ちかくもさいてこの舞踊団を紹介もしている。これは一流の芸人にちがいない。そこで私は見なければなるまいと決心をした。



両親を説くと、父はその新聞広告をじっとみつめて、「これはやめとき、来月には天勝も来ることやさかい、それ見せたる」と云う父はなにをジーンと見つめていたのであろうかと覗くと、その一座の入場料が、たしか特等十二円、一等十円、二等八円とかいうその値段表。なるほど無理もない今から四十年もむかし、十二円とは現価では一万円にも等しかろう。

それでも私は一人で見にゆく決心をして、一番安いところの天井さじき、これでも当時としては立派なお値段の一金二円也。机のヒキダシをひっくり返すと一円八十銭しかない。父に母に云えば二十銭がとこくらはくれるであらうが、えい、一人で自腹で行ってこませ……というわけで古本を五冊あまりひそかにかくし持って古本屋に駆けつけた。生れて初めて自分のものを売って人さまからゼニを頂いた。これが五十銭に売れて、入場料の二円につりが出た。

なんせ天井に近い席。そこで今というオペラ・グラスをしっかと握って、さて、なにを演るのであらうとプログラムを覗くと、「花々のめざめ」ドリゴ作曲とある。やがてシャンデリアがすーと消えオーケストラ・ボックスにライトがあたり西洋人の指揮者が現われると万雷の拍手。けれどもやがて演奏が始ってもなかなか幕があかぬ。「なにしょんねん、いつまで音楽ばっかりやっしょんねん、舞台では舞踊家がまだ初日やさかい揃わへんねやなア、あはたれ」私はそんなひどいコトは思わなかったが、それに近い気持ちでいると、やがて音もなくスーッと幕が上った。びっくりした。前に二人、うしろに三人、世にもきれいな純白の女が、両手を柔らかに開いて、前の二人はひざを下ろして、うしろの三人はつま足で立って、それが右の肩に小さな花をつけ、十秒、二十秒、三十秒、びた動きもしない。絵か人形か。私はかたづけを呑んだ。やがて中指の先きからかすかに動き始めたその動きが手首に腕に肩に胸にと動きが次第に静から動に、そしてやがて足さきの滑るような前進開始とともに五人が揃って両手をひろげフットライトの前にせいぞろいした時には私は思わず「アッ」とうめき声を出しかけた。

やがて「コッペリ機械人形」「眠れる皇女」となると私はこうふん状態。クルピンスキイ作曲という「ボウランドの結婚式」ではそ

のリズムその振付けまでもが今もって目に浮かびそのメロディが現にいまも口に出せるほど印象あざやかだ。そしてその私のこうふんはサンサースの「瀕死の白鳥」にいたって頂点に達し……これはイケナイ。そう思った。衆楽館の表に立って、私はそのはねてからどどん観客が家路に急ぐ中を唯一人三〇分も四〇分もその「瀕死の白鳥」の大きな西洋製ボスターの前に立ち、それをうち眺め、もう一度これはイケナイ……そう思った。こんな芸術を私は一生よそごとと暮らすことは私にとって罪悪だと決心した。私はこの夜からほんとうに舞踊家になろうと決心をした。

それで翌日の夜は、この催しは毎晩たしか八時が開演だったので七時まえからもう出かけ、こんどは両親から六円づつもぎとって特等席の当日売り、これがうまくたった一人というわけで手にはいり私は前から数席目のすこぶる上等の席で、心ゆくまでたんのうし、当夜はこれまたバヴロワの十八番ものの「トンボ」クライスラー作曲にめまいのする感激を受けた。その公演のあと私は非常口をひそかに開けて楽屋口にしひこみ、バヴロワに、せめて一座のボーイであろうとも皿洗いのコックであろうとも、どうか加えて下さいませ……と頼みに出かけ、さてその人の渦の華やかな楽屋の入口で、私はシガーの匂い、花かごの山の中で、とうとうおじけづき一歩二歩とあとすざりして、とても思いもかなわぬと逃げ帰ったのだが、あああのとき、思いきって弟子入りさえしてをれば今ごろは天下第一の舞踊家になっていたであろうに。しかし、あのあといろいろな人の舞踊書を買集めバレエのなんたるかを学びとり、さて、ひるまのすいて人ひとりをらぬ町の銭湯の大鏡の前で、やわらかく両手を頭上で曲げ、つまさきで立ち、首をやさしく曲げた、その私のポーズに、私は、ああ、これは「ハクチョーの湖」ではない、これはまさに「バクショーの湖」じゃないかなと、さめざめと泣きはしなかったが、とうとう、思いきって、あきらめましたね。そのときに。

（映画評論家）

紳士入門 ⑥

How to be a gentleman

英会話紳士

文・竹田 洋太郎
え・鴨 居 玲

オリンピックが近づくので、各地では英語塾が満員だという。本屋にいくと「もうチョットで英語は話せる」といった名の本が並んでいる。またビジネスマンのために「アメリカ人と商売する法」などという英語勉強の本も出ている。これらはすべて紳士道に反する現象であり著作である。

紳士は、それなら英語を話す必要がないのか。否である。紳士は「紳士の英語」を話さねばならない。そのためには、この章を読めば十分である。

群少の俗悪な本を読む必要はない。

第一に紳士は英語を話すことができればならないが話す必要はかならずしもないのである。話がこんがらがったが、いいかえれば、紳士は英語に堪能であるかもしれない。英語に堪能であるかのように見せればよいので実際に英語を話すことと、紳士であることとはなんら関係がない。むしろ流暢に、ペラペラと英語をしゃべる男はそれだけでも紳士の資格がない。トランジスタラジオといつわって、石炭ガラを輸出した人物も英語はたくみであつた。

そこで、本当に英語に堪能な人は、できるだけ口数少なく話すのが紳士の英会話である。またその内容は、古今東西の話題をとらえて広く話してはいけない。天気のことだけに限る。イギリスでも真の紳士は決してコールガールにウツツを抜かしているのではなく、クラブでは専ら天気の不平等を並べているのである。

次に、英語に堪能であるかのように見えるにはどうすればいいか。ここに数例を挙げてみよう。

「いつてやりましたよ」という言葉が流行したことがある。さる非紳士はアメリカから帰国したとき「ワシントンでケネディ君に会ったとき、わしゃ日本人を見そこなうな」といつてやりましたよ、ワハハ……」

その時あなたはこの非紳士と一緒にいつて「ワハハ……」と笑うのである。そこでちょっと間をおいて小声で「ときに『見そこなうな』というのは英語でどういつた方がいいのかな」と独り言のようにいつて近くの人に聞かせる。その結果、最初しゃべった人物は実は英語を全然知らなくて、あなたは相当英語がうまいという印象を近くの人は持つであろう。

また「最近いろんな方がお仕事で外遊されますが、あなたも近くいつしゃるのでしょう」と人にたずねられることが多い。その際には「私が外国へいつてもパテントの問題で法律上の議論をしたり、相手方の弁護士とやり合つたりするほど英語がうまくないものですから、現地の連中にまかせてありますよ」と、いともおうように語るのである。そうすれば、やはり相手の人はあなたの英語が相当なものだと思ふだろう。

ここでひるがえつて、紳士の英語に最も必要なフレーズを覚えておけば極めて便利である。筆者の経験からすると、中学一年の英会話の時間から今日まで、一番よく

「別冊紳士入門図解」

使ったのは I don't know. である。また、英国で出版されたさまざまな紳士道の書物にもそう書いてある。但し、紳士はこの I don't know. を中学で習ったままの発音でやってはいけない。カタカナで「アイドントノウ」では明治大正の流行語である。カナで書くなら

アーエ・デヤウント・ネヤウ

に近い発音でゆっくりやる。I don't know. はまた「私は知りません」と答えるだけではない。それをいうときに「さあ、そんな下らんことはボクは知らんね」とか「君そんなこと知らないのか」といった気持ちをこめて話さねばならない。他に数例を挙げるが、これはカッコ内の意味をこめていうことが肝要である。

As you know 〓ご存知のように (多分君は知らんだらうが)

I may be wrong 〓私が間違っているかも知れませんが (間違うのはいつも君の方なんだが)

Thank you just the same. 結果がどうあろうとも感謝しています (とんでもないことをしてくれたな)

We must meet again. ぜひお目にかかりましょう (二度と会いたくないね)

そして、全般的に紳士の英語はできるだけゆっくり、しかも相手に聞きとられないよう語尾を不明瞭にすること。その際パイプや葉巻をくわえたまま話すところも効果が増すものである。英会話においても相手をイライラさせ、イジワルをすることは正しい紳士の義務である。

「実録 英会話紳士海外編」

かって私が海外にいる時、色々の日本紳士を見る事が出来た。国を出る時秘書かなにかに、ホテルについたら先ずしっかりと名前を控えておけば迷い子になる事はないと教えられて来た紳士は、しっかりと玄関の名札をノートに記して夜の街見物にと出かけた。さて帰途タクシーに乗り込み、くだんの手帳を見せたのがまずかった。「EXIT」(出口)と記してあるのみであった。又、フランス語の出来る私の友人は地下鉄に乗った時にお腹の具合の変調に気が付いた。カフェに入るには折悪しく金がない。さればルーブル博物館のW・Cならばと前まで来ると運の悪い時はしょうもないもの、「本日休館」。それならばすぐ近所の「サマリテーマ百貨店」にとやっとの事でたどりついた(第一図参照)そして可愛いマドモアゼルに、はやる胸ではないお腹を押えて、「ラバボー、シルヴァブレ」(W・Cをどうぞ)と正確な発音で云った。ニッコリ微笑したマドモアゼルに導かれて地下室に下りた。は、あフランスの百貨店は地下にW・Cがあるんだあとと後に続く。(第二図参照)さあここですと云われた彼は本当に気が遠くなった。それは家庭用品の便器売場であった。……と云うような人の事を書くときも私が語学にタンノウであるかのように人も思いそして私まで錯覚を起してしまう。悪い気持ではない。これが洋太郎会話入門の極意の一つではなかるうか。

第1図

つこのような足どりで、百貨店までたどりついたのである。歩巾の乱れとせまいことに御注意。

第2図

最後の勇をふるって、マドモアゼルの後を歩いた足跡である。日本男子の心意気



小泉美喜子
〈月刊神戸っ子編集長〉



石阪春生さん
〈画家〉



新野幸次郎さん
〈神戸都市問題研究所理事長〉



米花穂さん
〈神戸大学名誉教授〉

選考委員



●第十四回 神戸っ子賞 日中友好の架け橋

林 同春に

■選考経過

今回で14回目をむかえた神戸っ子賞。これまでも素晴らしい方々に受賞していただいたが、今年も世界に誇れる神戸っ子の名が次々とあげられた。

経済界からは、商工会議所会頭代行の重責を担い、幻想的な光のルミナリエでは神戸市民はもとより観光に来る方々にも感動と希望をあたえた㈱ノリツ会長・太田敏郎。医療機器で世界のトップレベルを走り、医療産業都市神戸を代表するシスメックス㈱家次恒社長。神戸の食をリードする㈱ロックフィールド・岩田弘三社長。

福祉・教育関係からは、プロダクションの竹中ナミ。楽団あぶあぶあの東野洋子。里親を求める『愛の手運動』を40年以上実施している家庭養護促進協会の橋本明。兵庫県教育委員長の並川明子候補にあがった。

そのほかでは、神戸とも縁の深

い作家・田辺聖子。元町画廊の佐藤。棋士の谷川浩司。50年間神戸の夜を楽しませてくれたトム・キャンティの榊晴夫の名も。

最終的に、長年の功績と国際的な活動を称え、林同春への授賞と決定した。これからも日中の永い友情と発展、世界の平和のためにご尽力いただきたい。

(文中敬称略)

歴代受賞者

1. 淀川 長治 〈映画評論家〉
2. 朝比奈 隆 〈指揮者〉
3. 陳 舜臣 〈作家〉
4. 宮崎 辰雄 〈前神戸市長〉
5. 中内 功 〈ダイエー会長兼社長〉
6. 中西 勝 〈画家〉
7. 東山 魁夷 〈画家〉
8. 妹尾 河童 〈舞台芸術家・エッセイスト〉
9. 高村 勲 〈コープこうべ名誉理事長顧問〉
10. 新野幸次郎 〈神戸都市問題研究所長〉
11. 鬼塚喜八郎 〈アシックス会長〉
12. 貝原 俊民 〈前兵庫県知事〉
13. 下村 俊子 〈神戸鳳月堂代表取締役社長〉

■推薦のことば

神戸に住み、活躍しておられる外国籍の市民は多い。林同春さんは、その中でも突出した一人である。林さんは現在、神戸華僑総会名誉会長、学校法人中華同文学校名譽理事長、社団法人神戸中華総商會会長などの他、大震災後に始った日中・神戸・阪神―長江中下流

域交流促進協議會など、関係されるお仕事は実に多く、与えられた字数ではとても書き切れない。林さんは一九二五年生れであるが、九歳の時にご尊父のおられた日本に來住され、戦時中の想像を絶する辛酸に耐えて、戦争直後の昭和二十一年神戸に來られ、営々として今日の事業を築かれた。林

さんは今日まで『橋渡る人』という素晴らしい著書にも描かれているように、色々な仕事を担って、神戸と中国との橋を往来され、日中友好に尽されている。

林同春さんは、こうして国際港都神戸には欠かせない人になっておられる。

(新野幸次郎)



ご來神された紀宮様に兵庫縣外国人學校協議會の説明する林さん
スポーツデイに外国人學校の子供たちと一緒に

著書『華僑波乱万丈私史 橋渡る人』





鈴木 漢さん
〈詩人〉



安水穂和さん
〈詩人〉



伊勢田史郎さん
〈詩人〉

■選考委員



柔らかで清冽な感性

水こし町子に

●第三十三回 ブルーメール賞 〈文学部門〉



詩集「種子になる」砂子屋書房

■選考経過

今年の文学部門の授賞は詩の分野で活躍された方を対象となっている。

処女詩集『ガラスの部屋』が静かな反響を呼んでいる今井裕子。

春名純子の、子供に注ぐ視線が清新な『風屋』。ヘイトは幸福になる

ようにはデザインされていない」と言う坂東里美の『約束の半分』。

命への哀切な労わりに充ちた、永井ますみ『ヨシダさんの夜』。神

尾和寿の、世の東西を問わず歴史上の人物たちが詩人の演出のもとからみあう110幕の短編悲喜劇

『七福神通り』。装丁にも徹底したこだわりをみせ精選九編を収めたCDサイズの真っ白な本、小野原教子の『耳から董』。そのほかに、吉田章子『腐爛の書』。北野和博『公園から』。など数々の詩人・詩集の名があがった。なかでも繊細な詩人の魂を感じる水こし町子の『種子になる』に注目が集まり今回の受賞となった。

(文中敬称略)

歴代受賞者

- | | | | |
|-----------|------|-----------|-----|
| 1. 中村 隆博 | 〈詩〉 | 17. 森田 孝 | 〈詩〉 |
| 2. 鄭 承 | 〈俳句〉 | 18. 田中 紀子 | 〈詩〉 |
| 3. 小泉 重夫 | 〈小説〉 | 19. 夏 枝子 | 〈詩〉 |
| 4. 福 早 | 〈詩〉 | 20. 渡辺 雄子 | 〈詩〉 |
| 5. 三宅 武好 | 〈小説〉 | 21. 吉村 雅子 | 〈詩〉 |
| 6. 秋吉 越子 | 〈詩〉 | 22. 田中 雅子 | 〈詩〉 |
| 7. 江頭 利枝 | 〈小説〉 | 23. 大塚 元崎 | 〈詩〉 |
| 8. 桜井 光明 | 〈詩〉 | 24. 増田 風丹 | 〈詩〉 |
| 9. 梅村 知夫 | 〈詩〉 | 25. 野元 正子 | 〈詩〉 |
| 10. 吉保 敏夫 | 〈詩〉 | 26. 岩崎 青子 | 〈詩〉 |
| 11. 季 勝利 | 〈詩〉 | 27. 毛 佐知 | 〈詩〉 |
| 12. 福岡 勝二 | 〈詩〉 | 28. 由 丹子 | 〈詩〉 |
| 13. 時里 惠子 | 〈詩〉 | 29. 北原 文雄 | 〈詩〉 |
| 14. 松尾 美恵 | 〈詩〉 | 30. 今村 欣史 | 〈詩〉 |
| 15. 武田 信明 | 〈詩〉 | 31. 上 武男 | 〈詩〉 |
| 16. 山西 史子 | 〈小説〉 | 32. 上 武男 | 〈詩〉 |

ミモザの花

大きなミモザの木がある
今年の春も黄色い花が鈴のように咲いた
月見山駅の横の
線路ぎわにある更地に
毎年少しずつ大きくなっていくミモザの木
土台だけになった
家はすっかり解体された
でも庭木のミモザは残った
あんなに揺れて
屋根も柱も倒れたのに
大きく根をはっていたミモザの木は倒れなかった
女の子はミモザの木と一緒に育った
女の子は手の中にミモザの花をいっぱいのせて遊んだ
女の子はミモザの花のようにエレガントになった
何日か後の結婚式を女の子は待っていた
女の子はミモザの見える南側の部屋で死んだ
天井の梁が落ちてきた
女の子はいつも言った
ミモザの花が大好き
あれから何年たったのか
彼は訪れる
花のない時も
花の満開の時も
花の終った時も
女の子はミモザの木になった
女の子はミモザの花になった
ミモザは女の子になって大きくなる
ミモザは女の子になって花をつける

■推薦のことば

詩集『種子になる』を読んでいると、限りなく優しい気持ちに浸されてくる。作品の対象が、とても辛い出来事や悲しい風景であるにも拘らず、そうなのである。

次に記すのは、震災直後、両親を失った女の子が引き取られていく電車の中の様子だ。

“六歳の女の子がおばあさんといた／二人共前を見ているのに／前の何も見えていなかった／シーンとしていた／……／時々おばあさんが横を向いて／女の子に話しかけても／一言も答えなかった”
（二月のおわり）

ガレキの町が整理され、建売住宅などがたちはじめた頃、“あの時のままの／電車の中の女の子”の姿が詩人の脳裡に浮かび上がってくるのだという。この集の作品すべてに柔らかなで清冽な感性、それでいて透徹した批評の目が偏在している。一昨年の一月十七日、松方ホールであった震災関連の催しで、竹下景子さんは「ミモザの花」を朗読。涙されたが、他の詩編ともども繊細な詩人の魂のふるえの伝わってくる秀作だ。『種子になる』は、ブルーメール賞にふさわしい詩集といえる。

（伊勢田史郎）



中西弘則さん
〈神戸新聞文化部長編集委員〉



響敏也さん
〈音楽評論家〉



小石忠男さん
〈音楽評論家〉

選考委員



●第三十三回 ブルーメール賞 〈音楽部門〉

神戸で学び、バリが育てた美貌の歌姫

唐澤まゆこに

■選考経過

最近の音楽活動の傾向として、小型ホールをうまく活用し、音楽家と聴衆とが一体感を持てるような素晴らしい音楽会が数多く催され、とても水準の高い音楽を味わう機会が多くなってきた。

そんな多くのアーティストの活躍が目立つ中、昨年度の音楽界を振り返り、次のような候補者の名があがった。

クラシックでは、合唱界で注目を浴び続ける作曲家・千原英喜。バッハを主とする宗教音楽を中心に演奏活動続ける指揮者・本山秀毅。「ランメルモールのルチア」で充実した歌唱力を発揮し、出色だったソプラノの尾崎比佐子。若手ヴァイオリニストの育成に多大な功績があり、自身も松方ホールでの演奏会「ベートーベン・ヴァイオリンソナタ・シリーズ」が大好評であったヴァイオリニスト・小栗まち絵。新進気鋭の若手ヴァ

イオリニスト・木嶋真優。また、ジャズ界からは世界に活動の舞台を広げている小曽根真など実力派が勢ぞろいした。

このように着実に活動を続ける音楽家の中でも、特に昨今の活躍ぶりが目覚しく、ヨーロッパのオペラ通も大絶賛する声楽家・唐澤まゆこの授賞が満場一致で決まった。

(文中敬称略)

歴代受賞者

- | | | | | | |
|--------|----|--------|-------|----|------------|
| 1. 田原恵 | 富子 | 〈ピアノ〉 | 18. 岡 | 隆正 | 〈声楽〉 |
| 2. 矢野 | 子郎 | 〈合唱指揮〉 | 19. 戎 | 洋 | 〈ピアノ〉 |
| 3. 上 | 子 | 〈ピアノ〉 | 20. 大 | 哲 | 〈作曲〉 |
| 4. 今 | 子 | 〈ピアノ〉 | 21. 中 | 理 | 〈ピアノ〉 |
| 5. 小 | 男 | 〈音楽評論〉 | 22. 野 | 二 | 〈ピアノ〉 |
| 6. 中 | 隆 | 〈作曲〉 | 23. 本 | 郎 | 〈リュート〉 |
| 7. 関 | 子 | 〈ピアノ〉 | 24. 中 | 文 | 〈声楽〉 |
| 8. 坂 | 子 | 〈ピアノ〉 | 25. 本 | 子 | 〈神戸・神戸〉 |
| 9. 山 | 環 | 〈ピアノ〉 | 26. 田 | イ | 〈プロデュース〉 |
| 10. 松 | 三 | 〈ピアノ〉 | 27. 中 | エ | 〈ピアノ〉 |
| 11. 伊 | ミ | 〈ピアノ〉 | 28. 鈴 | 雅 | 〈指揮・チェンバロ〉 |
| 12. 井 | 和 | 〈ピアノ〉 | 29. 木 | 明 | 〈ヴァイオリン〉 |
| 13. 末 | 世 | 〈ピアノ〉 | 30. 浦 | 子 | 〈チェロ〉 |
| 14. 安 | 夫 | 〈ピアノ〉 | 31. 北 | 裕 | 〈声楽〉 |
| 15. 延 | 子 | 〈ピアノ〉 | 32. 林 | 秀 | 〈ピアノ〉 |
| 16. 中 | 春 | 〈ピアノ〉 | 33. 井 | 敏 | 〈指揮〉 |
| 17. 青 | 覚 | 〈ピアノ〉 | 34. 原 | 千 | 〈指揮〉 |
| | 彰 | 〈ピアノ〉 | 35. 松 | | 〈指揮〉 |



■推薦のことは

唐澤まゆこは神戸女学院大学音楽学部を卒業、フランスに留学して、パリ国立高等音楽院声楽科と古楽科バロック科に学び、最優秀の成績で卒業した。従来フランスを中心に活躍してきたが、昨年から日本にも活動範囲を広げ、既然大阪でも二回のコンサートで非常な好評を博した。英デッカからも

デビュー盤が発売され、いま注目の新鋭である。

彼女はフランス歌曲、それもバロックから現代まで幅広いジャンルのレパートリーをもつが、最近是非連の王妃マリー・アントワネットの埋もれた作品を発掘、生来の美声と才気にあふれた魅力的な舞台で紹介した。彼女の歌唱は明晰なフランス語にバロックの時代的

な唱法を加え、独自の創意にみちた解釈で、シャンソンの領域まで手中に納めている。今年はフランスのオーケストラと来演することが既に発表されているが、フランス歌曲のエスプリを表現する希少な存在として、今後の活躍が期待される。

(小石忠男)



岡田弘さん
〈元町画廊社長〉

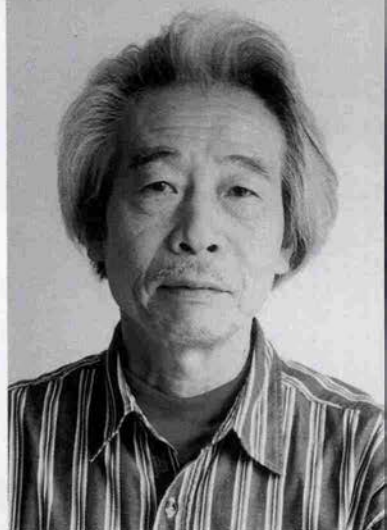


河崎晃一さん
〈声屋市立美術館学芸課長〉



越智裕二郎さん
〈兵庫県立美術館企画部マネージャー〉

選考委員



継続する力強さ

第三十三回 プルーメール賞 〈美術部門〉 小野田 實に

選考経過

まず今後の課題として、美術館のあり方と将来像を考え直す時期にきているという話題がのびた。これからは芸術の香り高い阪神間のイメージをなくさないためにも、まちの顔でもあるミュージアムやアーティストを、市民が本気で支援していきたい。

今回の候補として名があげられたのは、CAP HOUSEの活動が話題の杉山知子。平成15年度兵庫県芸術奨励賞受賞し、重厚さの中に生命感を漂わせる抽象画を描く岸本吉弘。神戸一紀展のギャラリ島田賞を受賞した岩島雅彦。ここ10年の仕事の充実ぶりがめざましい福島清。「マイグランドマザーズ」のシリーズや「グランドドクターズ」で注目をあつめヨーロッパでも活躍中のやなぎみわ。花をモチーフにした具象的な傾向への展開を示す児玉靖枝。ベテランの金月焰子。など、バラエティに富

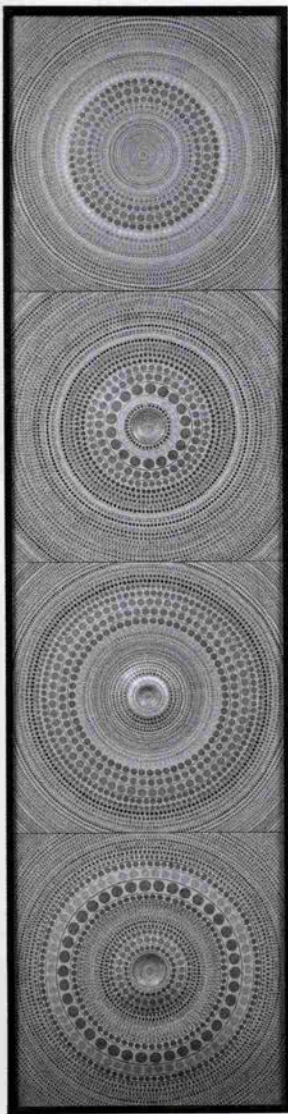
んだ分野で活躍をみせ注目された名前がいくつもあがった。

最終的に、今年は「具体」結成50周年記念ということもあり、こつこつと積み重ねてきた小野田實の仕事の成果が認められ今回の授賞となった。

(文中敬称略)

歴代受賞者

- | | | | |
|--------|------|---------|------|
| 1. 山口本 | 《彫刻》 | 17. 植松山 | 《造形》 |
| 2. 丸小西 | 《造形》 | 18. 松田中 | 《彫刻》 |
| 3. 小藤原 | 《洋画》 | 19. 田中津 | 《彫刻》 |
| 4. 斎藤 | 《版画》 | 20. 坪木津 | 《絵画》 |
| 5. 齋藤 | 《洋画》 | 21. 片木津 | 《版画》 |
| 6. 山本 | 《洋画》 | 22. 中津 | 《版画》 |
| 7. 堀本 | 《造形》 | 23. 中津 | 《版画》 |
| 8. 堀本 | 《造形》 | 24. 中津 | 《版画》 |
| 9. 谷下 | 《平面》 | 25. 中津 | 《版画》 |
| 10. 松宮 | 《平面》 | 26. 中津 | 《版画》 |
| 11. 藤宮 | 《平面》 | 27. 中津 | 《版画》 |
| 12. 藤宮 | 《平面》 | 28. 中津 | 《版画》 |
| 13. 藤宮 | 《平面》 | 29. 中津 | 《版画》 |
| 14. 藤宮 | 《平面》 | 30. 中津 | 《版画》 |
| 15. 藤宮 | 《平面》 | 31. 中津 | 《版画》 |
| 16. 藤宮 | 《平面》 | 32. 中津 | 《版画》 |

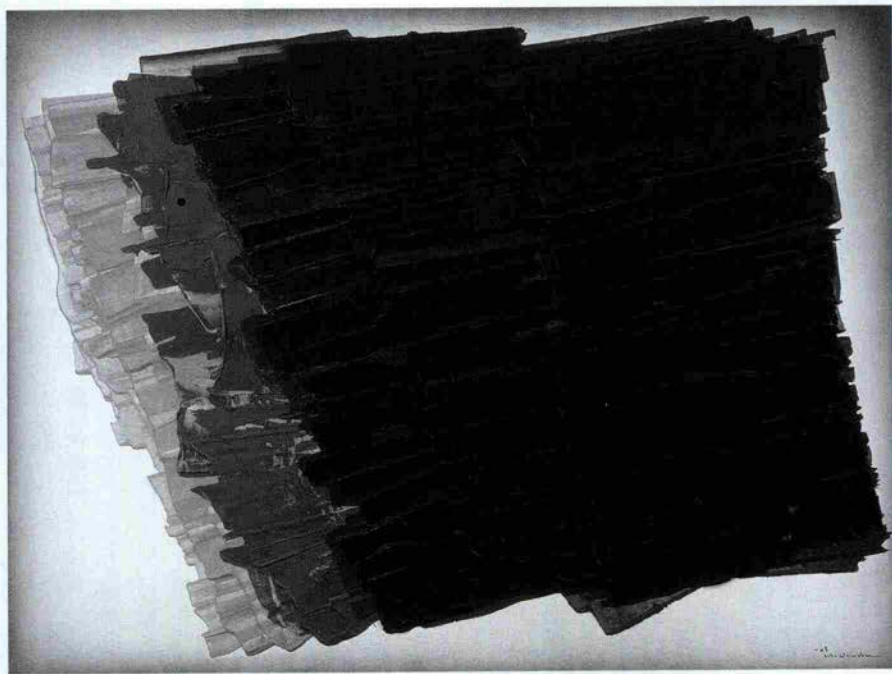


WORK68-R 1968年

(河崎晃一)

1月に姫路で開かれた「小野田實の世界展」の集大成をきっかけに、新たな創作の世界を見せてくれることを期待したい。

具体美術協会の後期メンバーのひとりであり、コンスタントに発表してきた40年以上のキャリアは、継続する力強さを感じさせる。ゆるやかな画面のふくらみの上に記された小さなマルが不定形に繁殖を続けていく作品から、空白の領域を基調とした精神的な色彩作品を経て、近年では色の痕跡をとらえた作品へと、いずれもあざやかな色彩を放ちながらも、どちらかといえば地味な芯の強さを受ける。そう感じるのは、私が知る小野田自身の人柄から受ける印象があるかもしれない。



WORK03-jul 2003年

■推薦のことば

58年の二紀会展をスタートに、60年代から姫路を基盤として活動を続けているベテラン画家小野田實に今年のブルーメール賞が贈られる。



山本忠勝さん
〈神戸新聞編集委員〉



岡田美代さん
〈演出家〉



佐野達実さん
〈元神戸新聞取締役文化事業局長〉

選考委員



●第三十三回 ブルーメール賞 〈舞台芸術部門〉

無上のエレガンスを表現

上月倫子 バレエスクールに

■選考経過

昨年のさまざまな舞台から、邦楽では、舞踊生活90年にしして最後の舞台となった花柳呂月の神技「山姥」の素晴らしさと急逝を惜しむ声。そして藤間京寛「年増」、花柳吉叟指導のもとレベルアップした舞台をみせる小ざくら会の中でも際立ってのびてきている花柳吉小叟、花柳旭叟。創作舞踊での試みがおもしろかった坂東大蔵が評価された。

能・狂言では善竹忠一郎「鮑庖丁」「泣尼」の実力が高く、照の会の上田貴弘、拓司、公威、大介四兄弟の活躍には目を見張るものがあると絶賛。

洋舞では、貞松・浜田バレエ団の「くるみ割り人形」「白鳥の湖」の堅実なものと、日本的感性・表現力にプラスした気品と心に賞賛があがった。創作力といきいきした新鮮さが評判の、鬼才上甲裕久の「高野聖」。藤田佳代舞踊研究所の創作実験劇場での金沢景子

「壁を通りぬけるもの」の構成と振り付けの面白さにも高い評価があった。

数多くの名があがった中でも、とりわけ上月倫子の「ジゼル」の指導力、振り付けの力、やわらかさのあるバレエの素晴らしさに高い評価があり、上月倫子バレエスクールの団体での受賞となった。永年の努力が結ばれた輝かしい栄冠である。
(文中敬称略)

歴代受賞者

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 花柳芳恵一子〈邦舞〉 | 16. 楠本 幸一子〈邦舞〉 | 31. 阿藤 小寺一登代 |
| 2. 若柳吉由二子〈邦舞〉 | 17. 東 幸二子〈邦舞〉 | 32. 阿藤 小寺一登代 |
| 3. 吉井 徳一子〈能楽〉 | 18. 久大和菜蘭の会〈邦舞〉 | |
| 4. 花柳芳五三郎〈邦舞〉 | 19. 貞松・浜田バレエ団 | |
| 5. 花柳 吉叟〈邦舞〉 | 20. 花柳芳五三郎の会〈邦舞〉 | |
| 6. 藤間京寛の会〈邦舞〉 | 21. 劇団四正会〈邦舞〉 | |
| 7. 尾上 菊見三子〈能楽〉 | 22. 貞松・浜田バレエ団 | |
| 8. 藤井 徳三子〈能楽〉 | 23. 善竹忠一郎の会〈邦舞〉 | |
| 9. 海野 光子 | 24. 善竹忠一郎の会〈邦舞〉 | |
| 10. コメディ・ド・フォーゲツ | 25. 若柳吉由二子〈邦舞〉 | |
| | 26. 太田 由利 | |
| | 27. 善竹忠一郎の会〈邦舞〉 | |
| | 28. 善竹忠一郎の会〈邦舞〉 | |
| 11. 加藤きよ子〈モダンダンス〉 | 29. 善竹忠一郎の会〈邦舞〉 | |
| 12. 藤田 佳代〈舞踊〉 | 30. 藤田 佳代〈邦舞〉 | |
| 13. 花柳五三郎〈邦舞〉 | 31. 阿藤 小寺一登代 | |
| 14. 白羽 弥仁〈映画〉 | | |
| 15. 松本 尚壽 | | |



ジゼル第1幕



上月倫子バレエスクール第23回発表会2003.10.5 神戸文化大ホールにて



ジゼル第2幕 辻 有紀/沖潮隆之

■推薦のことは

バレエは大きな矛盾をはらんだ芸術です。高度な技術が要求されますが、技術がナマの形で見えるようでは底の浅い舞台になります。精神的な深さが要求されますが、深刻な精神があらわに見えるようでは品位を欠く舞台になります。高い技術が端正な精神で十分にコントロールされなければ本当の美しさを表すことはできません。上月倫子バレエスクールの「ジゼル」(03年10月5日、神戸文化ホール)は見事にその高みに到達しました。

谷桃子バレエ団でまぶしくうちに輝いていた倫子さんが東京から呼び帰されたのは昔気質の父上のお考えがあつてのことでしたが、倫子さんは父上に従いながらしかしぎりぎりのところではご自分を通して神戸で後進の育成に当たられます。そして38年のご努力。今ジゼルに辻有紀を育て、ミルタに小田雅を得て、確かな技術で人間の深みを無上のエレガンスで表現することに成功しました。神戸にまたひとつ本物のバレエの美が現れました。

(山本忠勝)



見寺貞子さん
(神戸芸術工科大学助教授)



小泉美喜子さん
(月刊神戸っ子編集長)



鈴木章子
(神戸ファッション専門学校校長)



藤本ハルミさん
(デザイナー)

選考委員



●第三十三回 ブルーメール賞 (ファッション部門) 眠れる美のセカンドデビュー 藤井美智子に

■選考経過

神戸市のファッション都市宣言から30年が過ぎ、これまでさまざまな活動を続けてきた神戸ファッション協会に注目が集まった。特に神戸のファッション力のコーディネートターとして活躍してきた岸上龍平の優秀さは、特筆すべきものであると賞賛の声が高かった。

そのほかにもいろいろな形で、ファッション都市神戸に貢献し活動する候補の名が上がり、ファッションコンテストで優秀な成績を受けた星野貞治、塚本千恵美のハンドバックのセンスの良さ。パリのマレ地区でお店を持ち活躍する伊藤ひろみなど、評価すべき若手が多かった。

若手の企業家としてモデル・タレントプロダクション(株)ノイエの飯田新吾。若手アーティストを数多く擁する(株)ドリームアンド・モアの杉本悟。福祉とファッションを融合させた長田区ユニバーサル

デザイン研究会(会長・森清登)の名が上がり、これからの活動に期待したい。

数々の候補の名があげられた中から、今回は長年にわたる「タンスの中のルネッサンス」の地道な活動への評価が高く、デザイナーとしても指導者としても藤井美智子がふさわしいと評価され授賞決定となった。(文中敬称略)

歴代受賞者

- 藤本ハルミ (デザイナー)
- 米田博司 (神戸市心身障害者福祉センター)
- 市野木悦子 (ニットデザイナー)
- KLTC (クラブジュニアーズ)
- 太田タマコ (アートフラワー)
- K.F.S. (クラブファッションエディ)
- 「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム (パール)
- 神戸市家具青年会 (家具)
- K.F.M. (クラブファッションモデル)
- 望月美佐 (書道家)
- K.F.C. (クラブファッションクリエーターズ)
- 村上和子 (ジャーナリスト)
- 中村一夫 (デザイナー)
- 柴田音吉 (柴田グループ代表)
- 丹野最世子 (デザイナー)
- 大西節子 (デザイナー)
- 福井恵子 (旗の作家)
- 服部メカネ店 (メカネ)
- 佐藤悦枝 (アートフラワーデザイナー)
- 山本芳樹 (ホテルゴーフリッツファッションライブラリー館長)
- 大丸神戸店 (百貨店)
- 今岡寛和 (神戸ルミナリエ作品プロデューサー)
- 神戸ファッション協会
- VEGA (ジャググループ)
- シューズブラザ
- 《つものまちながた神戸》
- 内海和子 (ジュエリーデザイナー)



“モードメイトミチコ” ファッションパーティより



■推薦のことは

藤井美智子さんは「タンスの
のルネッサンス」をテーマに、生
徒たちを指導しながら、日本の伝
統的な暮らしの中で息づいてきた
着物の良さを活かし、祖父母から
大切に受け継いだ素材を手作りで
よみがえらせ、セカンドデビュー
の機会を創る仕事を始めて25周年。
3月10日(水)ホテルオークラ神戸
で開かれる「モードメイトミチ
コ」のファッションパーティは、
30回を迎え、創った洋服を生徒が
モデルとなってショーを繰り上げ
る独自のスタイルが、シニア中心
に神戸の紳士たちがエスコートす
るという楽しいハイカラ神戸の交
流イベントとなって「名物」にま
で成長したと思う。

読売新聞カルチャー教室の、神
戸・大阪を受け持ち、生徒さんた
ちの腕は確実にレベルアップ。

今回のテーマは「啓蟄」と、日
本の四季を感じさせ、中国獅子舞
を呼ぶなど、演出も毎回工夫があっ
て楽しく、夏は浴衣パーティもあ
り、企画力とその継続力は、地に
ついた仕事をして浸透してきたよ
うだ。

また古希を前に、藤井美智子自
身のデザインも、タンスの中や長
持ちの中の着物に脚光を浴びさせ
るフリーな感覚に磨きがかかって
きた。この受賞を機にさらに日
本の着物の美しさを新しくよみ
がえらせるよき指導者になってほ
しい。

(小泉美喜子)